

「西洋音楽の歴史 第1巻」

M.カッロツォ / C.チマガッリ 共著
川西 麻理 翻訳

STORIA
DELLA
MUSICA OCCIDENTALE

2009.03発行 定価3,990円(本体3,800円)
ISBN978-4-903439-06-8 C1073 ¥3800E B5判・320頁

イタリア語
からの
翻訳本

近年研究の進展著しい西洋音楽の歴史の深部へと、
堅苦しくない語り口でいざなう一冊。
プロ・アマ問わず音楽のルーツを辿りたい方へ。
※ 三巻シリーズの第一巻目 (年1巻刊行予定)

西洋音楽の歴史 第1巻

起源 (古代ギリシャ時代) から
16世紀 (ルネサンス人文主義) まで

訳者まえがき

序文

第一部 語り継ぐ伝承から書き記す伝承へ

- 第1章 古代ギリシャの音楽文明
- 第2章 キリスト教の単旋聖歌
- 第3章 9世紀の大革新
- 第4章 ネウマ譜とグイード・ダレツォ
- 第5章 中世の典礼音楽以外の単声音楽

第二部 音楽形式の模索

- 第6章 アルス・アンティクア：ノートルダム楽派
- 第7章 フランスのアルス・ノーヴァ
- 第8章 イタリアのアルス・ノーヴァ
- 第9章 15世紀の音楽形式
- 第10章 フランドル楽派の作曲家

第三部 制作依頼主と音楽市場

- 第11章 人文主義の宮廷音楽
- 第12章 フランスとイタリアにおけるバリ風ジャンソン
- 第13章 ジョヴァンニ・ピエルルイーゼ・ダ・パレストリーナ
- 第14章 16世紀のマドリガーレ
- 第15章 その他の場所での音楽：演劇・祝典・饗宴

【著者】

マリオ・カッロツォ (Mario Carrozzo)

1961年、ナポリ生まれ。ローマのサンタ・チェチーリア音楽院で、ピアノと音楽学のディプロマを満点で取得。その後、バヴィア・クレモナ大学で音楽学を学ぶ。バッハ、ヴィヴァルディ、シューベルト等の音楽、さらに聴覚教育法とフーゴ・リーマン (Hugo Riemann) の音楽理論に関する歴史的・分析的な論文を発表しながら、一般的な音楽的研究と平行して、科学的研究にも励む。1975年よりピアニストとしての活動を始め、ナポリのサン・ピエトロ・アマジェッラ音楽院図書館の手稿譜の目録作成のプロジェクトにも参加。現在、カンボパッソのロレンツォ・ペロージ音楽院で教鞭を執るとともに、マラーのモノグラフにも取り組んでいる。

クリスティーナ・チマガッリ (Cristina Cimagalli)

1961年、ローマ生まれ。ローマのサンタ・チェチーリア音楽院で、オーケストラ指揮、音楽学、ピアノのディプロマを取得。作曲法、バロック奏法等も学ぶ。論文も多数発表しており、カタログ監修、学会や演奏会等の企画・司会、プログラムの執筆なども行う。現在、1800～1850年にローマで行われた演奏会活動の再構築を研究テーマとしている。作曲家、指揮者、ピアニストとしても活動し、イタリア国内外で演奏会を行っている。1994年より国立音楽院で音楽史を教え、現在はカンボパッソのロレンツォ・ペロージ音楽院で教鞭を執っている。

M.カッロツォ C.チマガッリ
Mario Carrozzo Cristina Cimagalli
川西 麻理 訳
Mari Kawanishi

1

西洋音楽 の歴史

STORIA
DELLA
MUSICA OCCIDENTALE



C LIGHT publishing
シーライト パブリッシング

イタリアの音楽院 定番テキスト

発売開始

「なぜ？」に重きを置き、 思索しながら読む西洋音楽の歴史。

音楽史のバイブルとして高く評価されている
グラウトとパリスカによる「新西洋音楽史」(音楽之友社刊)。
その「新西洋音楽史」で展開されている音楽史的に重要な点と点を繋ぎ、
ある場面における変化の流れを詳しく、
そして多面的に解き明かす。

具体的な音楽の例や簡潔な表などを用いながら、
音楽家でなくとも理解できるような言葉による、
分かりやすい分析と語り口の
シリーズ第一弾。

音楽史をたどる読書にも最適

「西洋音楽の歴史 (STORIA DELLA MUSICA OCCIDENTALE)」は、三冊シリーズです。年1巻の刊行を予定しています。

第1巻 (2009年刊行) の内容

- 第一部 語り継ぐ伝承から書き記す伝承へ
- 第二部 音楽形式の模索
- 第三部 制作依頼主と音楽市場

第2巻 (2010年刊行予定) の内容

- 第四部 感情を揺さぶる音楽
- 第五部 バロック音楽の位置付け
- 第六部 理論上の諸問題「偉大なる祖先のギャラリー」

第3巻 (2011年刊行予定) の内容

- 第七部 ロマン派の美の様式
- 第八部 新しい音楽への道